

心のバリアフリー検定



公益財団法人 日本補助犬協会

「心のバリアフリー検定」について

「心のバリアフリー」という言葉をご存知でしょうか？

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。世界が注目するこの一大行事を契機に、今、国を挙げて「世界に誇れるようなユニバーサルデザイン社会を創設しよう」というプロジェクトが始まっており、それが東京オリンピック・パラリンピックの「レガシー（遺産）」となることを目指しています。

この方針をまとめたものが、「ユニバーサルデザイン2020行動計画」です。2017年2月20日にユニバーサルデザイン関係閣僚会議で決定されました。この中で、ユニバーサルデザインの公共施設や交通インフラを備えた「街づくり」を進めるとともに、国民全体を巻き込んで「心のバリアフリー」を広めていこうとされたのです。日本補助犬協会は、補助犬業界を代表して、この「心のバリアフリー分科会」に参画して参りました。

この「ユニバーサルデザイン2020行動計画」では、過去において障がい者の受けてきた特別視、差別、隔離はあってはならないが、かといって「障がいのある人はかわいそうであり、一方的に助けられる存在といったステレオタイプの理解も誤りである」としています。すべての人がお互いを尊重し助け合い、共に生きていく「共生社会」を作るために、人々の心の在り様はどう変わるべきなのでしょう。

それは、

障がいのある人への社会的障壁は、社会全体で取り除いていくべきだと理解すること

障がいのある人へ差別的取り扱いをしないと徹底すること

自分と違う他者の困りごとや痛みに共感できるようなコミュニケーション能力を身に付けること
なのです。これこそが「心のバリアフリー」であり、障害の有無にかかわらず誰もが生き生きとした人生を享受できる社会に向けて、私達国民が習得すべき概念なのです。

「行動計画」では、こうした「心のバリアフリー」を、学校、企業、地方自治体などあらゆる分野において広めていくことを推進しています。さらにその中で、障がい当事者自身が研修講師となり、自らの経験や考え方などを語ることが望まれています。

日本補助犬協会でも「心のバリアフリー」を広めるために、このたび「心のバリアフリー検定」を実施することにいたしました。同時に、既に実施している内閣府公益認定事業「補助犬ガイド士養成講座」の過程を初級・中級・上級に分け、この「心のバリアフリー検定」を「初級」に位置づけました。既にガイド士資格を取得済みの方も、そのフォローアップとして「心のバリアフリー検定」を受講することが出来ます。

日本補助犬協会の行う「心のバリアフリー検定」とあって、他団体の行う心のバリアフリーセミナーではあまりカバーされない、身体障害者補助犬とそのユーザーについての内容がしっかりと組み込まれております。また、補助犬ユーザーである視覚障害、肢体不自由、聴覚障害の方々にも「障がい当事者講師」として参画していただくこととし、こうした講師養成も行っていきます。

「自分と異なる他者」を認め合い、誰一人取り残されない社会を創るために私達ひとりひとりが出来ること＝「心のバリアフリー」を学んで、それをあなたご自身の行動につなげてみませんか？

公益財団法人 日本補助犬協会
代表理事 新井 敏之
代表理事 朴 善子

日本補助犬協会とは？

日本補助犬協会は、日本で唯一
3種類の補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)を育成する
団体です。

当協会は、身体障害者補助犬法の施行を機に設立された、日本で唯一3種類(盲導犬・介助犬・聴導犬)の補助犬を育成および認定できる団体です。

目の不自由、身体の不自由、耳の不自由な方の支援を補助犬を通じて情報発信しています。広く一般の人々が、障がいを持つ人や補助犬に対する理解を深めていく懸け橋として、社会に働きかけて行きます。

「街角で当たり前ユーザーと補助犬に出会う社会」を目指して、思いやりのある豊かな共生社会の一助となれるよう、活動しています。

事業内容

補助犬の育成及び貸与

補助犬認定事業

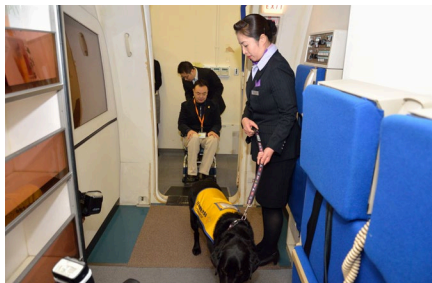
(盲導犬、介助犬、聴導犬の認定試験の開催)

補助犬啓発事業

～ユニバーサルデザイン2020行動計画～

当協会は、政府が決定した「ユニバーサルデザイン2020行動計画」に基づく障がい者や外国人など多様な人々とのコミュニケーションを促進する「心のバリアフリー」の取組に参画しています。

国家プロジェクトの「行動計画」には2つの柱があり、ひとつは、ユニバーサルデザインの街づくりです。これは、オリンピック・パラリンピック競技会場およびその周辺のバリアフリー化、主要鉄道駅や成田・羽田空港のバリアフリー化、リフト付きバスやUDタクシー車両等の導入、観光地のバリアフリー化を推進する、いわばハード面のユニバーサルデザインです。当協会は、新国立競技場の意見交換会にも召集され、様々な改善要望を提出しております。



もう一つの柱が、「心のバリアフリー」です。いわば、ソフト面のユニバーサルデザインです。

障がい者を含む様々な心身の特性 や考え方を持つすべての人が、お互いに理解を深めようコミュニケーションをとり、その結果お互いを支えあう行動をとるように、人々の心の在り様を変えていこう、というものです。

日本補助犬協会は、このユニバーサルデザイン2020関係府省等連絡会議「心のバリアフリー」分科会に身体障害者補助犬の業界を代表して参画いたしました。

補助犬を通じて学ぶ「心のバリアフリー検定」をスタート！

国の「行動計画」では、「心のバリアフリー」を学校教育に取り入れると共に、企業に対して「心のバリアフリー」社員教育や研修実施を推進しています。また、障がい当事者の方が講師・アドバイザーなどで参加、受講者が障がい当事者とのコミュニケーションをとりながら、理解を深めていただく形式を推奨しています。日本補助犬協会の「心のバリアフリー検定」は、国の「行動計画」に基づいた研修プログラムであり、さらに身体障害者補助犬に関する知識も網羅しています。

障がい当事者の方々を「心のバリアフリー」研修講師として活躍・育成するプログラムも始めました。障がい当事者講師養成のための必須資格です。また、この資格は、日本補助犬協会が以前から行っております内閣府公益認定事業である「補助犬ガイド士養成講座」の初級に相当します。



障がい当事者講師との コミュニケーション

共生社会のあり方を考え、行動するきっかけに！企業の支援が必要です！

ほじょ犬と学ぶ「心のバリアフリー検定」

ほじょ犬と学ぶ「心のバリアフリー検定」 プログラム概要

1) 心のバリアフリーについての解説



2) 障がい当事者講師による講習・実生活での課題、企業取組み事例紹介



3) 補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)のデモンストレーション



4) ディスカッション

思い込み/偏見などの意識改善、合理的配慮について実社会の課題、コミュニケーションの改善、当事者と必要なサポートについて意見交換

「心のバリアフリーを学ぶアニメーション教材」の投影

内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局作成



5) 検定テスト(合格者には認定証)



経営者・管理者向け検定



日本補助犬協会の「心のバリアフリー検定」の最大の特徴は、3つの障がいの立場から日常の困り事を考えることができます。障がい当事者を講師・アドバイザーとして迎え、双方向なコミュニケーションで理解を深めることができます。検定を通して、参加者の「心」に訴求し、自ら判断・行動できる人材を育成します。

検定のメリット

1. 障がいの理解と、意識の変化

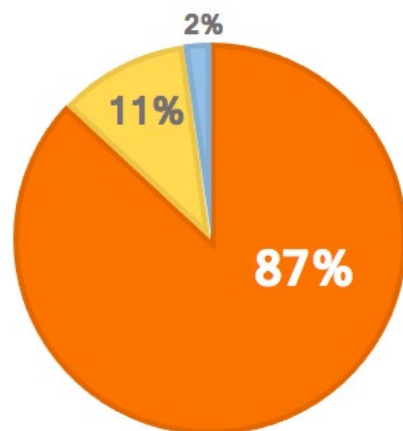
【参加者の回答】

- ・今まで盲導犬しか知らなかった。聴導犬の存在を初めて知った。介助犬を盲導犬と思っていた自分の無知が恥ずかしい。(20代男性)
- ・駅や、バスで見かけた時に、何をすべきがわからなかったが大事なのは相手へのコミュニケーションからだ理解了。(30代女性)
- ・自分だったらどうだろう？と考えるシーンが多く、実際の話が聞けてよかった。子供にも受けさせたい。(40代女性)
- ・日本は遅れていると思った。できることから改善支援したい。(40代男性)
- ・接客のマニュアルかと思ったら違った。こういうきっかけを会社が作るのはすごい良いと思う。(20代男性)

多くの受講者から**高評価**を頂いております。

▼検定受講者の声

質問:「心のバリアフリー検定」を受けて、満足しましたか？



■とても満足 ■満足 ■そうでもない ■良くない

2. 認定証を発行

▼「心のバリアフリー検定」認定証
試験に合格されると、認定証を発行いたします。



▼「心のバリアフリー検定」の開催は、
1) 年に数回の会場開催と、
2) 企業オフィスへの訪問開催、
3) 当協会訓練所開催の3つをご用意しています。



3. 障がい当事者講師と補助犬コミュニケーション

【ユーザーの声】

- ・アドバイザーとして、体験談を伝えるために参加しました。たくさん質問され、楽しくお話しできたのでよかったです。
- ・未だ認知の低い補助犬(盲導犬・介助犬・聴導犬)を知って頂く良い機会となりました。
- ・補助犬を同伴する為に必要な配慮をお伝えできる貴重な機会となりました。



日本補助犬協会の講師陣



講師：朴 善子

公益財団法人日本補助犬協会 代表理事

平成14年身体障害者補助犬法施行を機に、3種類の補助犬を育成・認定する日本補助犬協会を設立。盲導犬・介助犬・聴導犬の訓練士及び指導員。内閣官房『ユニバーサルデザイン2020関係府省等連絡会議「心のバリアフリー分科会」』及び「ユニバーサルデザイン2020評価会議」委員。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたアクセシビリティ協議会「アクセシビリティ・ガイドライン作業部会」委員、新国立競技場整備事業「ユニバーサルワークショップ」委員など。



講師：安杖 直人&介助犬ダンテ

公益財団法人日本補助犬協会 広報部長

社会福祉士・補助犬ガイド士

全国介助犬ユーザー連絡会 副代表

平成5年防衛大学卒業 幹部自衛官として陸上自衛隊名寄駐屯地、富士学校で勤務。平成13年交通事故で脊髄を損傷し、自衛隊を退職以後、介助犬ユーザーとなり、日本補助犬協会に就職。現在に至る。東京都オリンピック・パラリンピック教育支援事業として年間50校以上の小中学校の補助犬介在授業を障がい当事者講師として実施。その他教育機関や各種イベントでの補助犬啓発活動も多数。



講師：青木 保潔&盲導犬エマ

公益財団法人日本補助犬協会 評議員

補助犬ガイド士

日本補助犬協会認定講師

DPI日本会議 障害当事者リーダー

全国補助犬ユーザー連合会 代表

全国盲導犬使用者の会 会員

全国聴導犬ユーザー連絡会 代表
福永 順子&聴導犬マルコ

全国介助犬ユーザー連絡会 代表
阿部 容子&介助犬エリック

高橋 宏美&聴導犬小輔



補助犬ガイド士について

《 補助犬ガイド士について 》

身体障害者補助犬法はその第7条において「国等(国及び地方公共団体並びに独立行政法人、特殊法人)は、その管理する施設を身体障がい者が利用する場合において身体障害者補助犬を同伴することを拒んではならない」と定めています。

「補助犬ガイド士」は、3種類の補助犬ユーザーが施設を一般の方々と同様に利用でき、受け入れ施設事業者も円滑な業務運行ができるよう、ユーザー・利用者・事業者を結ぶ懸け橋となります。2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催にあたっては、障害者権利条約批准国としての対応が国際的に問われます。

**「心のバリアフリー検定」は、「補助犬ガイド士」初級に該当します。
企業の適切な対応に努めてはいかがでしょうか。**

▼役割

1. 受け入れ体制の確立 *「ガイド士」配置による施設内窓口の一本化

*系列施設内での対応の一本化 → 正しい情報窓口を設置する事で、受け入れに関する混乱を回避できる

2. 従業員への教育 *受け入れはコンプライアンスとして位置付ける

*補助犬の正しい基礎知識の習得(種類の確認・対応のポイント等)

→ 「ガイド士」の配置により、施設利用者へ適切な補助犬の説明が可能となる

《 補助犬ガイド士レベル別一覧 》

【初級】 **～心のバリアフリー検定～** ・ 2時間 ・ 講義＋（グループセッション）・ 検定試験



国は、東京2020オリ・パラ競技大会を契機に「誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会の実現」を目指し、国民に「心のバリアフリー研修」を推進しています。本検定では「ユニバーサルデザイン2020行動計画」に基づいた研修プログラムの内容をカバーしており、身体障害者補助犬ユーザーの困りごとについても網羅しています。全ての人を対象としています。

【中級】 **～サポートガイド検定～** ・ 2時間 ・ 講義＋実技 ・ 検定試験



初級を受講された方が次に進むステップとして実技研修があります。視覚障がい者、車椅子使用者、聴覚障がい者の方々へのサポート、また、身体障害者補助犬を伴ったの方々へのサポート方法の基本を講義と実践を通して習得して頂きます。

共生社会の実現を目指す社会のすべての方が対象です。

【上級】 **～補助犬ガイド検定～** ・ 3時間 ・ 講義＋実技 ・ 検定試験



初級、中級2つの検定（他団体の検定等も含む）を受講された方は、補助犬ガイド士の資格認定に進むことができます。この検定では、身体障害者補助犬の知識や補助犬ユーザーの接遇方法などを身に付ける為の実技研修です。本格的な専門知識が必要な方、また、補助犬の普及・啓発にご興味のある方が対象です。研修後検定試験を以て認定致します。

企業に向けてのメリット

1.社員教育

- 1)新入社員の研修に
- 2)店舗スタッフ、営業社員の研修に
- 3)管理職・リーダー層への意識研修に
- 4)社員イベントなどでの体験学習に



心のバリアフリー検定 申込み

- ・受講時間 120分 (応相談)
- ・受講料 5,000円/人 (税込)

▼申込みから実施までのフロー

- 1)実施人数、実施希望日を確認、調整させていただきます。
 - 2)開催場所によっては、ご希望の日時に添えない場合がございますので予めご了承ください。
 - 3)申込み受付完了後、検定費の請求書を送付させていただきます。
- (申込み日付で処理いたしますが、実施時期は数ヶ月先でも対応調整いたします。)



ご不明な点は、お問い合わせください。

連絡先 : 公益財団法人 日本補助犬協会 事務局

E-mail : japan@hojyoken.or.jp Fax : 045-951-9222 / 電話 : 045-951-9221